

思川開発事業と 下野市の関わり

思川開発事業は、多目的ダムを建設し、効率的に水資源開発を行うため、独立行政法人水資源機構が進めている事業で、栃木県等が参画しています。

思川開発事業とは

思川の上流部南摩川に南摩ダムを建設し、洪水調節、河川環境の保全等のために必要な水量確保のほか、水道用水の補給といった利水機能を持つ事業で、昭和44年に実施計画調査に着手し、その後検証を経て、平成28年に国において事業継続を決定しました。

本市の水道水の将来を案じていただき、市議会や市民団体から思川開発事業等に関する質問や要望書をいただきました。

ここで、思川開発事業と県南広域的水道整備事業について、現在までの経緯、県南地域を対象とした広域的水道整備事業への本市の関わり、考え方についてお知らせします。



栃木県が思川開発事業に参画している理由

県は、単独で参画している小山市を除いた、県南地域(栃木市、壬生町、野木町、下野市)の水道水源の高い地下水依存率や、地下水の汲み上げ過ぎによる地盤沈下の可能性、さらに地下水汚染等の状況から、地下水のみに依存し続けることは望ましくないと考え、将来にわたり安全な水道水の安定供給を確保するためにも、地下水と表流水のバランスを取れるようにしておくべきであると考えています。

市等が県の考え方に理解を示す理由

現在、市は水道水の100%を地下水に依存しており、表流水を使う権利を持っていません。

しかし、以下の理由により、これからは表流水を使う権利も確保しておくことが望ましいと考えています。

○地下水と表流水のバランス

を確保するため

○将来にわたり、安全で安定した水道水の供給を確保するため

○リスク分散の観点から多様な水源を確保し、安全で強靱な水道事業を保障するため

市の関わり

平成13年

○「栃木県水資源開発促進協議会」に石橋町、国分寺町が参加(現組織構成：小山市、壬生町、野木町、下野市)

平成19年

○栃木県が「県南広域的水道整備協議会」を設置
○同協議会に下野市として参加(現組織構成：栃木県、栃木市、壬生町、野木町、下野市)

具体的な協議はこれからです

県は、将来的には思川から取水・浄化した水を、県南の市や町に供給する用水供給事業を予定していますが、市がその供給を受けることになった場合の水道料金等は、まだ決まっています。

今後、市も参加している県

南広域的水道整備協議会において具体的に協議されることとなります。

今後の見通し

市が現在策定中である今後10年間を見据えた「水道ビジョン」計画では、水源は地下水のみを前提として進めています。従って、まだ暫くは地下水に100%依存することになります。

今後、県や関係市町と具体的な協議を行う段階になりましたら、市民の皆様にお知らせするとともに、ご意見を伺って参ります。

問い合わせ先

総合政策課

☎(32)8886

水道課

☎(32)8911

